

八重山諸島（石垣・西表島）採集記

山本一幸

1. プロローグ（まえがき）

雲海の上を運行する飛行機の窓から、さっそくクモならぬくもの観察を始めた。時おり奇妙な造形の塊が盛り上がり、秋特有のすじ雲が薄絹の羽衣となって漂い、虹色に輝いた。「あの雲の間を自由に遊べたら、どんなに楽しいだろう」幼い頃に遙か空を見上げて思った願いが、今かなえられたことに夢中になり、沖縄までの空の旅は子供の心に還っていた。

私は本来、南方よりも北方志向が強く、北海道に憧れていた。その気持は今でも変わっていないが、一昨年あたりから当会の面々が南へ頻繁に行くようになり、八重山行きもそんな話題のなかから谷角氏に誘われたものであった。「南には変わったクモがけっこういるし、若いうちにいろいろと見聞を広めておきたい」思い立ちと決断、そして実行までの時間の短さは独身者の特権である。結局、11月1～4日、3泊4日の日程で谷角氏と二人で行くことになり、航空キップなどの手筈はほとんど谷角氏に整えてもらった。

八重山諸島は沖縄本島より、さらに南へ 400kmあまりの所に位置し、石垣島や西表島を含む大小19の島々からなる。「日本のガラパゴス」とさえいわれるほどその生物と自然は豊かで、近年発見されたイリオモテヤマネコは有名である。今さらこれらの島々のことを私のような者がたどたどしく書くより、ずっとくわしい風土・地理・観光についてのいくつかのガイドブックや出版物（『沖縄・八重山蝶採集ガイド』蝶研出版など）が発行されており、多くの“虫屋”の方々が出向いておられるので、省略させていただく。“クモ屋”の立場でこの自然の中に入り込み、そこで感じたこと、思ったことを書いてみようと思う。

2. 石垣島（1）－11月1日、バンナ岳・熱帯植物園

石垣空港は、台風24号の影響でやや不安定な天候であり、風が強い。しかし、亜熱帯の太陽は暖かく、晩秋の本土から訪れた私には春風のように感じられ、最初はひどく戸惑ったが寒さから暖かさに慣れるのは早い。

さっそくレンタカーを借り、空港から近いバンナ岳を最初の採集地とする。こ

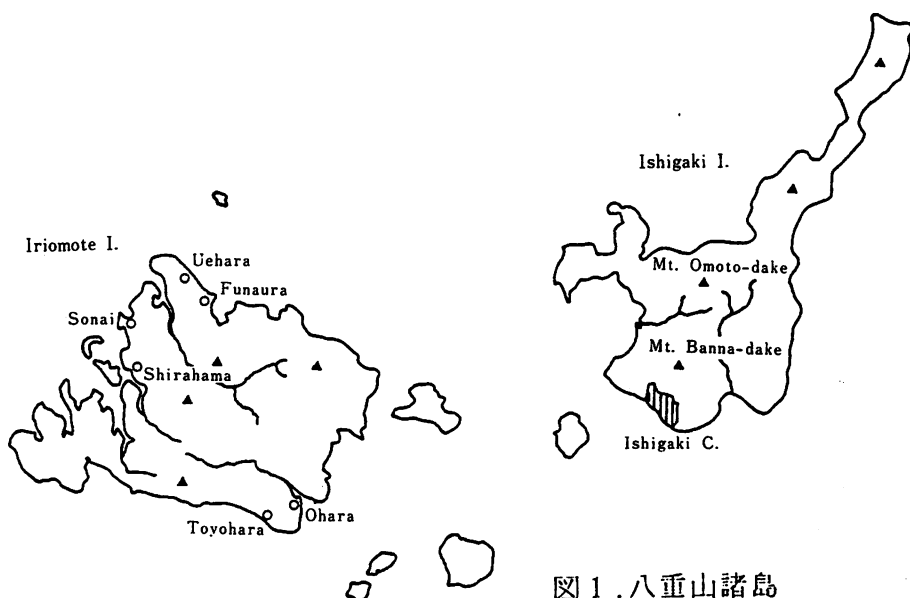


図1. 八重山諸島

こは、すでに1ヶ月近くも八重山に滞在している渡辺康之氏と落ち合う場所であり、ちょうど待ち合わせ時刻の3時にバンナ岳入口を右折すると、前方の道路を横切る髭面の人物が視界に入った。その人が渡辺氏であった。

彼の案内のもとに、本命のタテヅノマルバネクワガタのポイントへとジャングルの中に入る。私の目的はあくまでクモであり、知らぬ間に二人と離れて薄暗いジャングルの中に一人たたずんでいた。前方に明るく開けた場所があるので、下生えのシダをかきわけながら行ってみると、小さな池があった。ふと時代を逆行して原始の世界へ迷いこんだ錯覚に陥った。池の上を1mもあるトンボが飛びかい、シダの葉の間から今にも巨大なハ虫類が顔をのぞかせそうな恐怖を感じた。現実へ引きもどしてくれたのは、心配して呼ぶ仲間の声であった。事実、熱帯のジャングルには原始が残されている。太古の昔から姿をほとんど変えていないゴキブリ達は、世界中に5千種もいるといわれるが、屋内に侵入しているものはわずか1%にも満たず、そのほとんどが森林に生息している。リター性のクモを採集しようと落ち葉をかきわけると、ゴキブリの数・種類の多さに驚く。動くものに手が行く習性から素手でゴキブリをつかんでしまい、思わず声が出た。

進化のうえでタナグモ科やコモリグモ科の祖先とされるホルストジョウゴグモ *Macrothele holsti* は、一見ジグモとヤチグモを合わせたような形態をしている。日本に生息するクモのなかではかなり毒性が強いクモとされ、神経毒の作用がある。棚網のくずれたような形の網を、落ち葉や朽ち木の下から張り出していた。

かなりの個体を採集したが、あいにく(?)かまれることなく、その毒がどんなものか知ることはできなかった。西表島で採集した個体は全体黒色(腹部に茶色の斑紋がある個体もいる)で、上顎の部分だけ鮮紅色をしており、いかにも毒を持っていそうであった。

この時期、但馬では5時を過ぎるとすでに暗くなるのに、まだ明るい。まだ採集できるので裏バナの熱帯植物園を訪れたが、大した成果はなく、ヨレヨレのナガマルコガネグモ *Argiope aemula* が風に吹かれて頑張っていた。但馬では採集できないキヌアミグモやスズミグモを期待していたが、出現期をすでに過ぎており、ナガマルコガネグモも最後の生き残りだったようである。

バナ岳は標高が 230m で、市街地から近く、蝶の数も多いため採集者がよく訪れる。あいにく初日は風が強く蝶は少なかったが、最終日の11月4日は亜熱帯特有のギラつくような良い天候になり、多くの蝶が乱舞していた。飛行機の時間を気にしつつ、少数ながら蝶屋さんへのおみやげを採集することができた。

3. 石垣島(2) - 11月2日、於茂登岳

林道脇に車を止め、登山道に行く。登り口で、日本一の大きさを誇るオオジョロウグモ *Nephila maculata* が直径2m あまりの大きな網を張っていた。一度は自分の手で採集したいという念願がついにかない、蝶のように逃げはしないのに夢中で捕虫網を被せた。体長 45mm, 脚の長さを含めると 20cm 近くになる黒地に黄色の縦縞の入った美しいクモである。大型の管ビンには入らず、苦戦の末に、アルコールを入れていたプラスチック容器の中へ無理矢理押し込んだ。

標高 525.8m の於茂登(オモト)岳は沖縄最高峰である。シダやヤシの木が混じっていないければ、但馬の海岸ぞいの暖地性照葉樹林に似ていないこともない。そんな山道を渡辺・谷角両氏よりずっと遅れて、石を起こし、落ち葉をかきわけながらのマイペースで登っていく。ここでヤエヤマヤチグモ *Coelotes yaeyamaensis* を採集した。この種は、1982年にバナ岳産を模式として、下謝名松栄氏によって記載されている。シモフリヤチグモやヒメシモフリヤチグモと類似したグループに入り、雄の触肢に共通した特徴がある。特にヤエヤマヤチグモではその特徴が著しく現れているが、あいにく採集したのは雌ばかりであった。ヤチグモ属には地域的な固有種が見られ、島のような地理的条件ではそれが顕著に現れやすい。今回の旅行でかなり集中的にリターや石下を注意してみたが、採集でき

たのは本種だけであった。しかしその後、渡辺氏からいただいた採集品のなかに、まったく別種の雄が含まれていた。

4. 西表島(1) - 11月2~3日, 仲間川林道

石垣港3時半発の快速艇で、石垣島から西表島まで1時間。サンゴ礁内ではおだやかな海も、外海に出ると大荒れだった。船は大きく上下のジグザグを繰り返し、平衡感覚は必死で安定を保とうとするが、波の変化にはとうてい追いつけずに、吐き気を必死でこらえる。4時半をやや過ぎた頃船浦港に着いた。船酔いでややふらつきながら踏みしめた西表島は、やはり風が強かったが、まさに離島に着いた感じがして、石垣島よりずっと感激した。

レンタカーは石垣で借りたものよりひどく、おかげで気がねなくムチャクチャができた。特に仲間川林道では、台風の影響で道のまん中に大きな深い溝ができ、それを避けるために車は道ばたの木の枝のムチを受けるはめになった。よく壊れなかったものである。

林道から脇へそれ、シイの巨木の密生する亜熱帯林をぬけた所に展望台がある。ここから仲間川とその周囲のヒルギ(マングローブ)林が望まれ、まるでアマゾン川を想わせる景観にこの島の自然の豊かさを感じた。この展望台をしばしのねぐらと決めこんだ渡辺氏に会うため、そしてタテヅノマルバネクワガタを採集するために、日に何度か通うのである。特に夜はスリル満点である。

タテヅノマルバネクワガタは夜行性であり、とてもラッキーな人でない限り昼間に成虫を採集することはむずかしい。そこで夜間採集となるのであるが、背後にはハブの恐怖がつきまとう。実際ハブに出会ったのは一度だけだったが、ジャングルに入る時はいつも手にしばき棒を持ち、まるで盲人のように前を探りながら歩む。夜はしばしハブなど忘れさせるほどおもしろい。奄美から沖縄にかけて生息するサソリモドキ *Typopeltis stimpsonii* はサソリに似ていて、別名ムチサソリと呼ばれるように尾端がムチのように細長く、日中はやや乾燥した石の下や朽ち木の下に隠れている。夜になるとエサを求めて徘徊し、とてもすばやく大胆に動きまわる。アシダカグモ *Heteropoda venatoria* やコアシダカグモ *H. forcipata* が多く見つかり、なぜかバナナトラップにも来ていた。不思議に思っていると、バナナに集まるゴキブリを捕食しているのであった。徘徊性のクモでは一番大きい仲間であり、ゴキブリの天敵として人家にも侵入しているが、エ

サの多い熱帯の森林にその個体数が多いのもうなずける。そのほか、側面にオレンジ色の斑点が連なる、体長 10cm 以上もあるゲジの一種が下生えなどに這い上がっており、近くを通ると足元に落ちてきて、あまりの不気味さに驚かされる。奇妙なカエルの鳴き声が響きわたり、暗闇の中で活動する動物達の生命力が感じられ、とてもにぎやかな夜である。

ただし微小の吸血羽虫には悩まされた。露出している皮膚のいたる箇所、顔といわず、頭といわずチクリチクリと刺し、ものすごく痛がゆい。掻きむしるとミミズ腫れになり、やがて頭や額がでこぼこになる。アルコールの臭いを嫌うのか、泡盛を 1 ビン空にした渡辺氏はほとんど刺されていないようであった。

夕方、林道を車で走っていてオオコウモリの飛翔を目撃した。猛禽と間違えるほどその飛び方は堂々としており、コウモリのイメージをまったく感じさせないものだった。

5. 西表島（2）-11月3日、上原、白浜、祖納

バインの甘酸っぱい香りに誘われて集まって来るのか、昼間でも道端や側溝に落ちているという情報をもとに、もう一種のマルバネクワガタのチャイロマルバネを求めて、谷角氏と二人だけで上原のバイン畑へ出向いた。なだらかな丘陵地にバイン畑が続き、その先に青い海が広がっている。今の時季に収穫しているのはジュースや缶詰め用のもので、実を太らせるために頭の葉は摘み取られる。畑で黄色く完熟したバインが鼻腔を強く刺激し、畑で作業している現地のおじさんをお願いして、一番うまそうなやつを一ついただいた。亜熱帯の太陽の下を歩いて渇いた喉を、甘酸っぱいジュースがここちよくうるおし、しばしの幸福感にひたる。「クワガタムシなら道なんぞなんぼ歩いてもおらんちゃよ。腐ったバインの中におるで」と教えてもらい、再びバイン畑をさまよい歩く。結局、チャイロマルバネクワガタは採集できなかったが、腐ったバインの中からサキシマヒラタクワガタを多数採集した。

西表島は、島の南端に位置する豊原から東にぐると白浜まで一本の道路が走り、小さな集落を結んでいる。ほんの一時の旅行者に島民の生活などほとんど知ることができないが、白浜と祖納を訪れて、村々から漂う南国の田舎のゆったりとしたのどかさがすごく気に入った。結婚して島で生活するなら、年間数千円で鉄筋二階建ての家を借してくれるという。ふと人生を考えてみたりした。「チョ

ウ、採れたか?」「虫、採れたか?」と話しかけてきた子供達の、何の屈託もない笑顔がとても印象的だった。

もう一種、八重山諸島の名のつくクモ、ヤエヤマウズグモ *Octonoba yaeyamaensis* を紹介しておこう。1981年に吉田哉氏によって記載された種であり、先のヤエヤマヤチグモ同様、八重山諸島の特産種である。琉球列島のこのクモの仲間、トウキョウウズグモ属 *Octonoba* は他に6種が明らかにされ、島によってそれぞれ固有種として分布している（吉田、1981）。祖納で採集したものは、朽ち木の間に造網しており、雌であった。種としての特徴は雄の方がわかりやすい（触肢の構造）。図によって雌の外部生殖器だけを比較すると、久米島に分布するクメジマウズグモとやや混同しやすい。

6. 西表島（3）－南風荘

シャワーでさっぱりした後のオリオンビールでほろ酔い気分の南国の夜には、蛇皮線の音色がよく似合う。けだるく、哀愁のある甘ったるい調べは、ほのかに漂う花の香に似て心を落ちつかせ、まるで夢の世界へといざなうかのようである。

石垣島では虫屋のよく泊る「なぎさ荘」にお世話になったが、西表島では大原にある日本野鳥の会協定旅館「南風荘」に2泊した。最初の夜はちょうど、前の道路を隔てた離島総合センターで民俗芸能発表会が催され、赤や青の原色の衣装をまとった人々による、ゆるやかな舞いが演じられていた。蛇皮線の音はそこから流れてきていた。

南風荘は、鉄筋建の二階にアパート風に部屋がしつらえてあり、夜間採集で遅くなっても誰にも迷惑をかけずに部屋に帰ることが可能だ。色紙に書かれた宿泊者のサインが食堂の壁一面に貼られ、なかには芸能人も混じっていた。我々もオジョロウグモを添えて書いたので、ここに泊まれたら注意されたし。

居心地も良く、食事も豪華だった。西表特産のガザミ（ハサミだけで8cmぐらいあり、殻が厚く硬い）、イカのスマ汁（黒い汁）、白い小粒の貝のみそ汁、コブダイのような魚の空揚げ（だし汁に浸してある）など、珍しい郷土料理が出され、満腹でしばらく動けなくなるほどだった。

7. 出会った人々

旅の楽しさの一つにいろいろな人との出会いがある。心を開放的にして新しい

友を作るのも大切なことである。

渡辺康之氏については、北海道の大雪山で一冬過ごしたという経歴を聞かされていたので、熊のような人物を想像していた。実際はヒョロリとしたやせ気味の、あご髭だけがたくましさを感じさせる人物だった。仲間川のジャングルに夜間独りで泊り、泡盛を1本ペロリと空にして、なおかつ平気で歩き回る。数日を共にしてその変人ぶりもさることながら、氏の心の温かさを感じた。二日続けて、夜間に仲間川林道ヘタテヅノマルバネクワガタを求めて出向いたものの、ほとんど見つからなかった。最終日には早稲田大学の学生二人が同じ目的で来ていた。我々は今までの疲れもあって、あまり熱心に探そうとしなかった。そんな我々を氏は「絶対採れるから」と言って励まし、酔っぱらってフラフラになりながら、消えそうなヘッドランプで丁寧に探してくれた。この日は気温も高く、ハブが木の根元にとぐろを巻いているのを目撃した。心配する我々を尻目に暗い林の中にどんどん入って行き、おかげで我々は、ようやく一頭採集することができた。氏は我々が帰った後もしばらく滞在され、預けた管ビンの中に、私が採集することのできなかったヤエヤマサソリ *Licheles australasiae* や、ナガイボグモなどの珍しいクモを採集してくれていた。

「月刊むし」の藤田宏氏とは上原への行き帰りに何度か出会った。氏は沿岸の道路の側溝をバイクで丁寧に見て走り、チャイロマルバネやタテヅノマルバネなどを拾い、かなりの成果を上げていた。「今年はチョウがバツとしないので、蝶屋がクワガタ採りに夢中になっていますよ。マルバネクワガタは魔性の虫ですね」と、微笑みながら話しておられた。

国立科学博物館の友国雅章氏と都立大教授の山崎柄根氏には往路の南西航空ロビーで出会った。両氏は、カメムシや直翅類の調査に来られたとのことだった。

さらに那覇空港に到着した時、熱烈な阪神ファンである熊谷夫人の歓迎を受けた。うなぎ弁当をいただき、私にもわか阪神ファンとなって、とてもおいしく御馳走になった。

いずれも、私は初めてお目にかかった方々で、谷角氏を通じて面識がもてたことは非常に幸運であった。そのほか、「なぎさ荘」のママさん、早稲田大学のアリを研究している水上氏、南風荘の御主人平田一雄氏など、多くの方々からいろいろと興味ある話を伺い、とても楽しい旅であった。

8. エピローグ (あとがき)

大阪空港に飛行機が近づくにつれ、現実が黒雲のように湧きあがり、やがて憂鬱な気分覆われる。「疲れた。でも楽しかった」とても充実した日々であった。スキーや山登りなどで我々が立てる計画は、いつもハードスケジュールとなる。一日ぐらい、ゆっくりと余裕を持ちたいと常々思うのであるが、勤め人の身ではそうもいっておられない。短時間のうちに精一杯動き、手あたりしだい見て、採集する。渡辺氏のように1ヶ月以上も滞在できたらと羨ましく思う。

沖縄のサンゴ礁は現在、半分以上が死につつあるとテレビで報道していた。日本の自然は北も南も少しずつ確実に破壊されている。

南風荘のおじさんに、西表島に発電所があるのかと聞いたところ「今は石垣島から送電しているが、将来は仲間川の上流にダムを作り、水力発電をする計画がある」という返事であった。のんびりして良さそうに見える島の生活も、その内情はわからない。ただダムの底になってしまう生物や自然を考えると、今の状態ではなぜいけないのだろうかと思う。現代人は便利さとわずかな金銭のために、とても大切な物を失ってははいないだろうか。

末筆ながら、谷角素彦氏をはじめお世話になった方々に心より感謝したい。

クモ類採集リスト

採集データは以下の略号をもって記す。

- 11月1日、石垣島バンナ岳・・・・・・・・・・バンナ
- " 米原 米原
- " 裏バンナ熱帯植物園・・・・裏バンナ
- 11月2日、石垣島オモト岳・・・・・・・・・・オモト
- " 石垣市・・・・・・・・・・石垣市
- 西表島仲間川林道・・・・・・・・仲間川-1
- 11月3日、西表島上原・・・・・・・・・・上原
- " 祖納・・・・・・・・・・祖納
- " 仲間川林道・・・・・・・・仲間川-2

その他、成体は成、亜成体は亜、幼生は幼と略す。採集者については特記のない限りすべて筆者。

1. Dipluridae ジョウゴグモ科

Macrothele holsti Pocock, 1901 ホルストジョウゴグモ

バンナ, ♀亜4, 幼. 祖納, ♀亜. 仲間川-2, ♀亜.

2. Dictynidae ハグモ科

Latys sp.

仲間川-1, ♂ 亜.

3. Uloboridae ウズグモ科

Octonoba yaeyamensis Yoshida, 1981 ヤエヤマウズグモ
オモト, ♀ 成. 祖納, ♀ 成.

4. Scytodidae ヤマシログモ科

Scytodes thoracica (Latreille) ユカタヤマシログモ
米原, 幼.

S. sp.

米原, ♀ 成.

5. Pholcidae ユウレイグモ科

Smeringopus pallidus (Blackwall, 1858) ユウレイグモモドキ
バンナ, ♂ 成, ♀ 亜.

Spermophora sp.

バンナ, ♀ 亜.

6. Theridiidae ヒメグモ科

Achaearanea angulithorax (C. Koch, 1841) オオヒメグモ
裏バンナ, ♀ 成. オモト, ♀ 成 (谷角).

Theridion japonicum Bös. et Str., 1906 ヒメグモ
米原, ♀ 成 2.

T. sp.

バンナ, ♂ 成.

7. Linyphiidae サラグモ科

Prolinyphia sp.

オモト, ♀ 成 (谷角).

Gen. sp.

オモト, ♀ 亜.

8. Symphytognathidae ヨリメグモ科

Conoculus lyugadinus Komatsu, 1940 ヨリメグモ
オモト, ♀ 成 2.

9. Araneidae コガネグモ科

Argiope aemula (Walck., 1873) ナガマルコガネグモ
裏バンナ, ♀ 成.

Cyclosa insulana (Costa, 1834) シマゴミグモ
バンナ, 幼. 裏バンナ, ♀ 成 2. オモト, ♂ 成. 祖納, ♀ 成.

C. vallata Keyserling, 1886 マルゴミグモ

米原, ♀ 成. 石垣市, ♀ 成. 上原, ♂ 成.

Gasteracantha mammosa (C.Koch,1845) チブサトゲグモ

裏バンナ, ♀成.

Neoscona subpullata (Bös. et Str.,1906) ヘリジロオニグモ

裏バンナ, ♀成. 上原, ♀成.

Nephila maculata (Fabricius,1793) オオジョロウグモ

バンナ, 幼. オモト, ♀成.

10. Theridiosomatidae カラカラグモ科

Oglnius sp.

上原, ♀成.

11. Tetragnathidae アシナガグモ科

Leucauge blanda (L.Koch,1878) チュウガタアシナガグモ

バンナ, ♀成. 仲間川-2, ♀成.

Tetragnatha sp.

オモト, ♂成.

12. Agelenidae タナグモ科

Coelotes yaeyamensis Shimojana,1982 ヤエヤマヤチグモ

裏バンナ, ♀成. オモト, ♀成3.

13. Pisauridae キシダグモ科

Dolomedes sp.

オモト, ♀垂.

14. Lycosidae コモリグモ科

Lycosa coelestis (L.Koch,1878) ハラクロコモリグモ

バンナ, ♂成, 垂. 裏バンナ, ♀成. オモト, ♂垂.
仲間川-1, ♀垂, 幼3.

L. sp.

裏バンナ, ♂垂, ♀垂, 幼. 上原, ♀成2.

Tricca japonica Simon,1888 ヒノマルコモリグモ

オモト, ♀成2.

15. Oxyopidae ササグモ科

Oxyopes sertatus L.Koch,1878 ササグモ

上原, ♀垂2, 幼2.

16. Thomisidae カニグモ科

Xysticus sp.

バンナ, 幼.

17. Salticidae ハエトリグモ科

Hasarius adansoni (Audouin,1872) アダンソンハエトリ

石垣市, ♂垂. 上原, ♂成, ♀成2. 祖納, ♂垂.

Icius difficilis (Bös. et Str., 1906) マガネアサヒハエトリ
米原, ♀成. 石垣市, ♀垂. オモト, ♂成(谷角).

Menemerus confusus Bös. et Str., 1906 シラヒゲハエトリ
石垣市, ♀垂.

Maripssa sp.
祖納, ♀垂.

M. sp.
仲間川-2, ♀成.

Myrmarachne innermichelis Bös. et Str., 1906 ヤサアリグモ
裏バンナ, 幼. 祖納, 幼.

Silerella sp.
祖納, ♀垂, 幼.

Gen. sp.
バンナ, ♀垂. 仲間川-1, ♀垂.

Gen. sp.
仲間川-2, ♂成.

18. *Liocranidae* ウエムラグモ科

Phrurolithus sp.
仲間川-1, ♂成, ♀成.

19. *Gnaphosidae* ワシグモ科

Gen. sp.
オモト, ♀垂.

真正クモ類以外として;

Typopeltis stimponi サソリモドキ
裏バンナ, 幼. 仲間川-2, 成.

Pseudobiantes japonicus ニホンアカザトウムシ
バンナ, 幼. オモト, 幼.

ザトウムシの一種
オモト, 成(谷角).

追加(後日, 渡辺氏よりいただいたものである)

採集データ: 西表島仲間川林道, 11月上旬 採集者 渡辺康之

Araneidae コガネグモ科

Araneus pseudocentroides Bös. et Str., 1906 トガリオニグモ
♀成.

Neoscona theisi (Walck., 1841) ホシスジオニグモ
♂成

Zilla astriae (Strand, 1916) サガオニグモ
幼3.

Hersiliidae ナガイボグモ科

Herenia sp.
♂ 亜成.

Agelenidae タナグモ科

Coelotes sp.
♂ 成.

Salticidae ハエトリグモ科

Icius difficilis (Bös. et Str., 1906) マガネアサヒハエトリ
♀ 成.

Marpissa sp.
♂ 成.

Gen. sp.
♂ 成, ♀ 成.

その他

Liocheles australasiae ヤエヤマサソリ

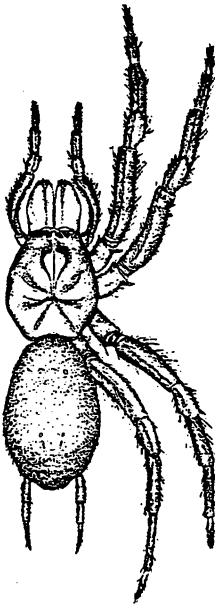


図2. ホルストジョウゴグモ

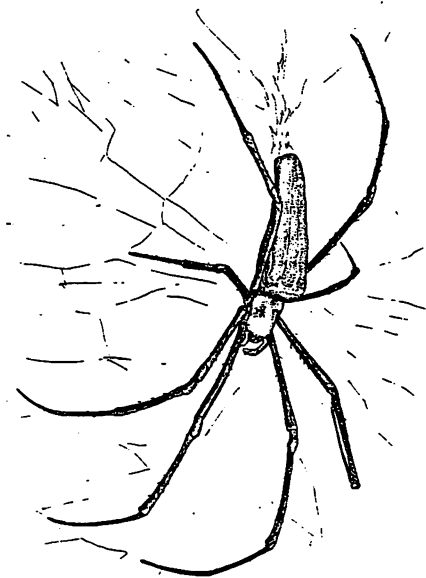


図3. オオジョロウグモ

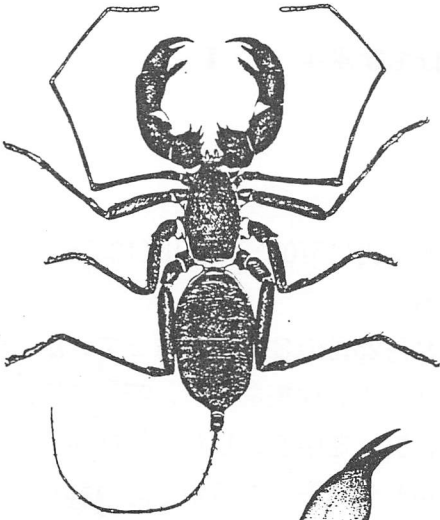


図4. サソリモドキ

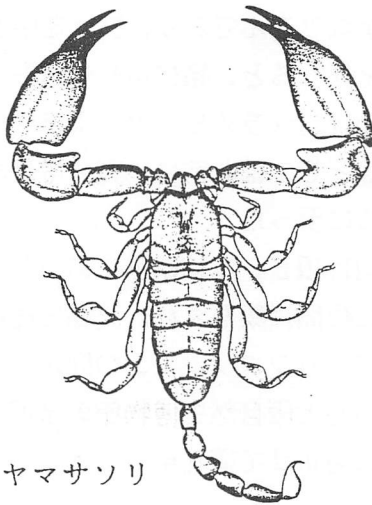


図6. ヤエヤマサソリ

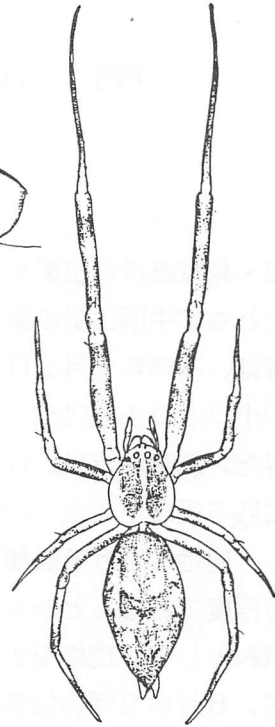


図5. ヤエヤマウズグモ
(左上は♀の生殖器)

参考文献

中平 清監修, 1976. 学研の図鑑 クモ. 学習研究社.

SHIMOJANA, M., 1982. A new species of the genus *Coelotes* (Araneae, Agelenidae) from Yaeyama Island, Okinawa prefecture, Japan. *Acta arcnol.*, 30:75-82.

新海栄一・高野伸二, 1984. フィールド図鑑 クモ. 東海大学出版会.

小路嘉明, 1985. 沖縄・八重山蝶採集ガイド. 蝶研出版.

八木沼健夫, 1977. 日本産真正蜘蛛類目録. *Acta arcnol.*, 27, (Sp.no.):367-406.

YOSHIDA, H., 1981. Seven new species of the genus *Octonoba* (Araneae, Uloboridae) from the Ryukyus, Japan. *Acta arcnol.*, 30:21-32.